

他動詞から派生した前位修飾の‘-ing’形

久 泉 鶴 雄

は じ め に

英語の名詞句において、主要語の名詞に対して前位修飾を行う‘-ing’形には、形容詞、現在分詞、動名詞、および動名詞の一種である引用実詞（英語では‘quotation substantive’。Jespersen (1909-49) の 8.21 参照）があり、後位修飾を行う‘-ing’形には現在分詞のみが存在する。

前位修飾を行う現在分詞のうちで、単独で主要語を修飾するものは、一部の擬似自動詞を除き、殆んどが自動詞に由来する。

一方、前位修飾を行う現在分詞のうちで、単独ではなく、義務的に付加的要素を伴うものとしては、補語や副詞を伴う自動詞と、目的語を伴う他動詞とがある。

現在分詞以外の前位修飾の‘-ing’形に目を転じると、‘-ing’形の形容詞にも、動名詞にもそれぞれ自動詞に由来するものと、他動詞に由来するものとがあるが、引用実詞は、これまでの調査結果では、他動詞のみに由来している。

以上で総覧したように名詞を前方から修飾する‘-ing’形には、互いに異なる四つの類があって、区別がしにくい場合がある。かといって、その区別をあいまいなままにしておくわけにはいかない。

特に判別しにくいのは、ある‘-ing’形が辞書の entry として確立している形容詞なのか、それとも、必要に応じて統語的に生成される現在分詞なのか、という区別であり、またもう一つは、引用実詞なのか、それとも現在分詞なのか、という区別である。

一番区別がしにくいのは、他動詞に由来する形容詞ないしは現在分詞と思われるものが、実は引用実詞ではないか、と思われるような場合である。

それに較べれば、いわゆる完全自動詞に由来する大多数の現在分詞や、補語や副詞を伴った自動詞の現在分詞を見分けることは難しくない。なにしろ、目的語がないので、その省略について考える必要もないからである。表層構造に目的語を消去しないまま従えている他動詞由来の‘-ing’形は、現在分詞になる場合と引用実詞になる場合とがあって単純ではない。

今しがた一番区別がしにくいと述べた引用実詞対、現在分詞ないしは形容詞との区別の問題は、その‘-ing’形が他動詞をもとにしているという事実から起ってくる。そのような‘-ing’形は、他動詞としての目的語を文脈にたくして消去してしまっているため、他動詞から派生したという点と、基底にあるその目的語が表面上は消去されているという点だけしか最初は目に入らない。分析のその次の段階で、形容詞か、現在分詞か、動名詞か、動名詞の一種である引用実詞か、の区別を迫られることになる。

本稿では、他動詞に由来する現在分詞が一体どの程度に存在するものかという疑問を解くために、主として、他動詞に由来する‘-ing’形に重点を置いて資料分析にあたった。結果として、動名詞も視野の範囲に含めざるを得なくなったので、動名詞も扱うことにするが、本稿は今までに『大妻女子大学文学部紀要』に発表した二つの論文、“前位修飾の現在分詞 (1), (2)” (1983 年, 1986 年)と『大学英语教育学会紀要』掲載の“Prenominal ‘-ing’ Participles Accompanying Complements” (1986

年)の研究テーマである前位修飾の現在分詞に関する研究の路線上に並ぶものである。

§ 1. 他動詞に由来する前位修飾の '-ing' 形の形容詞

§ 1 では、他動詞に由来する四種類の前位修飾の '-ing' 形、即ち、形容詞、現在分詞、主要語の名詞の目的・用途を示す動名詞、引用実詞のうちで、形容詞のみを取り上げる。

はじめに、§ 1.1 で一般的な他動詞に由来する形容詞、§ 1.2 では他動詞に由来する点は同じだが 'figurativeness' を伴う形容詞、§ 3 では、'心理的述語' と呼ばれる他動詞に由来する形容詞というように、順を追って資料を検討する。

§ 1.1. 他動詞に由来する前位修飾の figurativeness を伴わない '-ing' 形の形容詞

前位修飾の '-ing' 形を見たら自動詞の現在分詞と思え、という一般論は、往々にして役立たない。役立たないどころか、現在分詞だと思ったその '-ing' 形が実は形容詞である、という場合がよくある。そこで、なぜ一見して現在分詞であると思うのかというと、それはその '-ing' 形の前位修飾が織りなす head noun に対する文脈的意味が非常に動詞性の強いものであることが多いからである。しかも、更に分析を進めて行くと、その名詞句内の文脈的意味が持つ動詞性は、'-ing' 形の元となる他動詞の表面には現われていない目的語を自ずと想定するために生れてくるものと考えられる。

例えば、'a *leading* figure in economic circles' の 'leading' は他動詞から派生した現在分詞であるように見えるが、実は形容詞である。'figure' との間に解釈される文脈的意味は、'人を指導する～'、'指導的な～' という意味であるが、この '人を指導する' という意味はまさに一個の他動詞の意味であって、表面上は 'lead' の目的語は記されていないが、これを解釈する者は自然に目的語である人 (=someone) を想定した上で名詞句全体の意味、'人を指導するような人物' → '指導的人物' という意味解釈を行う。

このような '-ing' 形が、現在分詞であれば辞書の 'entry' にはなっていないが、形容詞として確立していれば、辞書の 'entry' になっているし、程度の副詞のうちの強意詞である 'very' の修飾を許すか、一般の形容詞の多くがそうであるように比較級形を持ち、対応する構造として関係代名詞節による書きかえを許す。勿論、今あげたような形容詞の文法的な特徴がすべて同時に満足されるとは限らない。

このような '<-ing' 形+head noun>' の '-ing' 形が隠し持っている目的語については、既に Lehrer (1970) の研究があるが、内在している目的語は不特定なもの、例えば 'someone' や 'something' や文脈上特定な語(句)、またまれには 'everything' などである。

次に、実際に幾つかの例を検討することにする。

なお、続く § 1.2 では、上に述べたような形容詞が 'figurativeness' を帯びて初めて意味的に成立している場合をまとめて記述するので、それと区別するために、このセクションのタイトルに 'figurativeness' を伴わないという字句をわざわざ挿入した。

- (1) Gorbachev called for total elimination of nuclear missiles, warheads, bombs and other weapons from the planet. (中略) He also offered *tantalizing* hints about ways to break specific deadlocks. …… "A Farewell to Arms?", *NW*. Jan. 27, 1986. p. 4 (以下、*NW* は *Newsweek* を表わす)

‘tantalizing’は比較級を許すので形容詞である。一方、‘tantalize’は他動詞で目的語を伴うから、例文中の‘tantalizing’は潜在的な目的語として‘Washington’ないしは‘Reagan’を従えていると考えられる。しかし、この場合‘tantalizing’の目的語は文脈から自明なので、表層からは消去されている。この‘tantalizing hints’に対応する表現は、‘hints which are tantalizing’で、更に言いかえると、‘hints which tantalize Washington (or Reagan)’である。

- (2) Even more than most Soviet arms control proposals, Gorbachev’s plan is a *tantalizing* mixture of old and new, ambiguity and detail, apparent concessions and repeated demands. … “A Farewell to Arms?”, *NW*, Jan. 27, 1986. p. 5.

この例の‘tantalizing’も(1)と同様の例である。更に、一般的によく使われる‘a *tantalizing* puzzle’, ‘a *tantalizing* smell, a *tantalizing* smile’などの場合も、本来は‘tantalize’の目的語として‘tantalize someone (e.g. people)’のように‘someone (e.g. people)’を従えているのであるが、形容詞として使われると、その目的語を落して主要語の名詞の内在的特性を分類する機能を帯びる。

- (3) There were so many *loving* moments, a mother with her baby, a father protecting two children. … “A Letter from the Publisher”, *TIME*, Dec. 17, 1984. p. 5.

‘loving’は形容詞で‘慈愛に満ちた’という意味である。一方、動詞‘love’の潜在的な目的語は不特定の‘someone’であるが、更に‘someone’を特定化しようとすれば、文脈から、‘her baby’や‘two children’が浮かんでくる。

- (4) ~ patients were still arriving at ~, many of them doubled over with *racking* coughs, gasping for breath ~ … “India’s Night of Death”, *TIME*, Dec. 17, 1984. p. 9.

‘racking’は‘身を苦しめる’という意味の形容詞。動詞‘rack’は‘〈人を〉苦しめる’という意味の他動詞。目的語は‘them=many of the patients’である。

- (5) The Indian Central Bureau of Investigation, meanwhile, seized records and log-books at the plant, and Chief Minister Singh ordered a judicial inquiry into the accident. This is a *devastating* tragedy. … “India’s Night of Death”, *TIME*, Dec. 17, 1984. p. 10.

‘devastating’は‘破壊的な’という意味の形容詞。動詞‘devastate’は‘荒廃させる (=to destroy completely [LDOCE])’という意味の他動詞。‘devastating’の文脈上の目的語は‘everything’である。

- (6) One employee said he sounded a siren to warn the *surrounding* Community ~ … “India’s Night of Death”, *TIME*, Dec. 17, 1984. p. 11.

‘surrounding’は‘取り囲む、周辺の’という意味の形容詞。動詞‘surround’は‘~を取り囲む’と

いう他動詞で、この場合、潜在する文脈上の目的語は ‘the Union Carbide pesticide plant’ である。

§ 1.2. 他動詞に由来する前位修飾の figurativeness を伴う形容詞

§ 1.1 で記述したものと同一他動詞に由来する ‘-ing’ 形の形容詞が ‘figurativeness’ を帯びている例が多いので、以下にそれをまとめて記述する。‘figurativeness’ を帯びている点だけが異なっており、元の動詞が他動詞でその目的語を省略している点は § 1.1 の例と共通である。‘figurativeness’ は特性を示す意味をもっているため、名詞の前という位置、即ち特性記述の前位形容詞の位置に発生するのに意味的に言って誠にふさわしい。これがこのセクションの ‘-ing’ 形が形容詞化している理由であろうと思われる。

- (7) Howard Baker, Dole's gentlemanly predecessor as Republican leader, was a master at putting a *soothing* arm on colleagues' shoulders to achieve cloakroom compromises. ... “As Congress returns, Dole has some delicate dancing to do”, *NW*, Jan. 27, 1986. p. 7.

この例文の中の ‘soothing’ は形容詞として permanent form を確立しており、辞書項目の一つとなっている。‘soothing’ の元となっている動詞の ‘soothe’ は他動詞と自動詞と両方に機能するが、勿論、他動詞として ‘(人が) ~ をなぐさめる’ という意味に用いられるのが本来的な使い方である。従って、形容詞の ‘soothing’ も意味的環境においては目的語の ‘someone’ (この文脈では ‘his colleagues’) を従えているのであるが、表層構造ではそれを消去している。次に ‘a soothing arm’ に対応する表現を考えてみると、それは “*an arm which is soothing/soothes his colleagues” ではなくて、‘such (a type of) arm as is felt to be soothing his colleagues’ である。従って、このような形容詞は元々の他動詞の意味に比喩的な意味を加味して、主要語の名詞の類に関して分類的功能を果していると考えられる。この ‘a soothing arm’ を ‘an arm for soothing’ に対応させることはできない。前置詞 ‘for’ にあるような ‘目的’ を表わす意味はこの phrase 内の文脈の意味には存在せず、今述べたごとく、‘soothing’ は ‘arm’ の種類に関して ‘classifying function’ を果しているのである。

- (8) Eyewitnesses spoke of “*deafening* blasts”, and “sky-high balls of flame” in the port.
... *TIME*, Jan. 27, 1986. p. 17.

この例では、他動詞 ‘deafen (人の耳を聞こえなくする)’ を比喩的に使って、‘耳を聾するばかりの ~’ という形容詞の意味にしている。‘deafen’ の目的語は ‘one's ears’ である。対応する構造は ‘blasts that are deafening (または deafen) one's ears’ ではなくて、‘such blasts as seem to deafen one's ears’ である。

- (9) Almost any of its (=PEN'S) 10,000 members worldwide ~ could invent a more *inviting* topic for discussion. ... *TIME*, Jan. 27, 1986. p. 32.

この例の ‘inviting’ は潜在する目的語として ‘people’ を従えているが、それと同時に ‘人を招く、ひきつける’ という意味から比喩的に ‘魅力的な ~’ という意味の形容詞に変化している。

§ 1.3. 他動詞としての心理的述語に由来する前位修飾の '-ing' 形の形容詞

周知の如く, Chomsky (1965), p. 151 の心理的述語の '-ing' 形も, 本節では触れざるを得ない。即ち, 他動詞がその目的語を省いて '-ing' 形の形容詞となっている点は, 本稿の§ 1 全体にかかわる特徴であるからである。手許の資料の中から二三の例をあげておくが, 心理的述語の前位の形容詞は 'an *exciting* surprise' の 'exciting' や, '*astounding* profits' における 'astounding' のように日常頻繁に出くわす形容詞である。しかし, '-ing' 形のもととなっている動詞の他動詞性, 即ち, 言外の目的語の存在を強く感じさせるものばかりである。これが心理的述語の形容詞をことさらここに取り上げる理由である。

- (10) From a platform in front of the Lincoln Memorial came King's voice, an instrument of *astounding* resonance, mingling the powerful cadences of black spirituals with majestic Whitmanesque imagery in (後略) ... *TIME*, Jan. 27, 1986. p. 8.

例文中の 'astounding' は 'very' による修飾を許す。また, 既に permanent form を確立しており, 辞書では形容詞として取扱われている。動詞 'astound' は心理的述語で, 抽象名詞を主語に, 有生名詞を目的語にとり '～をびっくり仰天させる' という意味である。'*astounding* resonance' は 'resonance which is *astounding* to someone (=people)' に対応し, 'astounding' は [+stative] という特性を持っている。従って, 現在分詞から発達した形容詞であると言えることができる。

- (11) Recently he delivered a *withering* attack against Jeyaretnam, who has accused the government of meddling with the judicial system. ... "Singapore's New Dissent", *NW*, Oct. 6, 1986. p. 15.

ここでは, 'withering' は '萎縮させる, 破壊的な' という形容詞となっているが, 動詞 'wither' は '(あることが) <人を>弱らせる, 萎縮させる' という意味の心理的述語で, 目的語は文脈上は 'people' であるが, それは省略されている。

ただし, 同じ一つの動詞であっても, 意味用法によって心理的述語と呼べる場合と, 呼べない場合が出てくる。興味深いことは, そのように動詞の '-ing' 形が, 心理的述語の場合に目的語を省略して '-ing' 形の前位修飾の形容詞となることは当然のこととして, 一方予想に反して, 主語に [+Animate] の特性をもった名詞をおいて, いわゆる心理的述語としての特性を帯びていなくても, やはり '-ing' 形の前位修飾の形容詞になり得ることである。次の例を見よ。

- (12) After wading to the platform through a sea of out-stretched hands, the lanky, self-assured Garcia, 36, delivered the kind of *rousing*, nationalistic exhortation that audiences across Peru have come to expect. ... *TIME*, Jan. 27, 1986. p. 14.

例文中の 'rousing' は形容詞として確立している。動詞 'rouse' の用法を調べてみると, 心理的述語として使われる場合と, そうでない場合がある。即ち, 'I am a dangerous woman when I'm roused (=when something makes me angry)' [*LDOCE*, p. 968, 'rouse'] からわかる通り, '～ when I'm roused by something that makes me angry' と書きかえてみると, 'rouse' の行為者は [+Abstract]

の特性をもった ‘something’ で、被行為者は [+Animate] の特性をもった ‘me’ である。ところが、‘The speaker tried to rouse the masses (from their lack of interest)’。[LDOCE, p. 968, ‘rouse’] のように、‘rouse’ は同じ意味合いで用いられていても、必ずしも常に心理述語としての特性を備えているとは限らない。なぜなら、この場合は主語は [+Abstract] ではなくて、[+Animate] という特性をもっているからである。従って、後者の場合に、‘the rousing speaker’ のようにならないかということ、そうではなくて、心理的述語の場合と同じように前位修飾の ‘-ing’ 形の形容詞となるのである。このほか、‘a rousing speechmaker’ (『新英和大辞典』, ‘rousing’) のような表現もある。

§ 2. 他動詞に由来する前位修飾の現在分詞

§ 1 で ‘-ing’ 形の形容詞を取り上げたあと、§ 2 では、他動詞に由来する前位修飾の現在分詞を取り上げる。‘はじめに’ の中で触れたように、他動詞に由来し、統語的に臨時に生成される前位修飾の現在分詞なるものは案外に少ないものである。このような現在分詞は § 2.1 で述べるように、表層構造に義務的に目的語に従える場合と、§ 2.2 で述べるように、他動詞の目的語が文脈から recover できるためにそれを表層構造では消去してしまうものと分れる。

§ 2.1. 他動詞に由来し、目的語を伴う前位修飾の現在分詞

§ 1 をみると、いくら他動詞から派生した形容詞といえども、さすがに表層構造に目的語に従えた ‘-ing’ 形はない。もしそのような構造があるとすれば、それはこのセクションで取り上げる現在分詞であって、現在分詞の方が、他動詞由来の形容詞よりは動詞性が強いことを物語っている。

なお、資料は拙稿 (1986, c. pp. 107-8) から一部を流用する。このような現在分詞の特徴は、一見、他動詞から生成された現在分詞のように見えるくせに、実際はあとで述べる ‘引用実詞’ と非常にまぎらわしく、当該の名詞句の第二要素である主要語の名詞と第一要素である前位の ‘-ing’ 形との間の文脈的意味を分析した結果でないと判断がつかない。このようなまぎらわしい引用実詞については § 4 で取扱う。

このセクションで取り上げる現在分詞の特徴について述べると、前位修飾 ‘-ing’ 形の主要語の名詞に対する文脈的意味は、特性記述的、分類的で、対応する関係節構造の述部に ‘be + -ing’ か、または ‘-ing’ 形の元の動詞の定形を用いるという点である。引用実詞ではこのようなことはできない。

例えば、‘peace-loving nations’ においては、名詞 ‘nations’ の特性を ‘peace-loving’ が記述し、同時に、他の ‘nations’ との比較分類を行っている。従って、‘peace-loving’ は、主要語の名詞の特性を記述し、分類的である。また、対応する表現は、‘nations which love peace’ のように、他動詞と目的語がそのまま関係節の中に表われる。

その他の例を二、三あげる。

- (13) an energy-saving device
- (14) the time-consuming process
- (15) a blood-sucking beetle
- (16) 10,000 flag-waving people
- (17) a pipe-manufacturing company
- (18) artificial pest-and-weed-killing chemicals

今回の研究資料の中からも少し例を追加する。

- (19) male-*producing* sperms
- (20) oil-*producing* states
- (21) Asia's other opium-*producing* nations
- (22) a "self-*supporting* and self-*financing* system
- (23) drug-*sniffing* dogs

§ 2.2. 他動詞に由来し、目的語を伴わない前位修飾の現在分詞——疑似自動詞の現在分詞

標題が示す通り、独立した形容詞ではなく必要な時に統語的に生成される現在分詞で、しかも目的語を省略したもの、という疑似自動詞の現在分詞ということになる。

実は他動詞から派生し、文脈から recoverable な目的語を省略した前位修飾の '-ing' 形の形容詞という、あたかも疑似自動詞の現在分詞形のように思われてくるのであるが、今も述べた通り、かたや形容詞、かたや現在分詞という相違が lexical item として存立しているか否かという観点からみると存在するのである。

疑似自動詞の現在分詞の前位修飾は Lees (1963) の如く容認しない dialect に属する人と、Hill (1962) のように容認する dialect に属する人とが居るわけであるが、一般的で recoverable な不特定の目的語を省略した多くの '-ing' 形の形容詞の存在を踏まえて考えると、Hill (1962) のような反応ははなはだ納得のいくものであると言わざるをえない。

疑似自動詞と '-ing' 形の形容詞、並びに現在分詞の前位用法との関係については Lehrer (1970) の appendix にあげられているすべての疑似自動詞について今後検討する予定であるが、安井・中村 (1976), p. 59 の 'a *drinking* man' と 'the *drinking* cattle' は全く同じ種類の '-ing' 形ではなく、前者は独立した形容詞であるのに対して、後者は現在分詞である。疑似自動詞の前位修飾の '-ing' 形についてはこのような差違も考慮の対象にしなければならない。

また、目的語を省略したが故に生ずる情報不足を補うために付加的要素として副詞を加えて成立する疑似自動詞の前位修飾現在分詞については、付加的要素をはずして考慮しなければならない。

§ 3. 他動詞に由来する前位修飾の動名詞

前位修飾の動名詞を含む名詞句は複合動名詞 (compound gerund) と呼ばれることがあるが、その第一要素である動名詞は自動詞に由来する 'a *walking* stick' のような類と、'a *fishing* net' のように他動詞の目的語を省略したいわゆる疑似自動詞の類と二種類に分れる。目的語を表層構造に伴った他動詞の前位修飾の動名詞は次節で記述する引用実詞であることが多く、注意しなければならないが、'a *sight-seeing* tour' の如く、目的語の 'sight' を伴った他動詞 'see' の動名詞も存在することは確かである。

§ 4. 他動詞に由来する引用実詞

引用実詞には後位用法はなく前位用法だけである。引用実詞はおしなべて他動詞に由来するものが殆んどであるが、文脈から recoverable な目的語であれば、特定なものも、不特定なものも省略してしまう場合が多いので、あたかも他動詞の現在分詞であると錯覚してしまうおそれがある。ところで一方では、'a sentence *modifying* adverb' (=an adverb whose function is modifying a

sentence) のように、目的語を伴った例もある。これは ‘an adverb for modifying a sentence’ とは別のものである。

以下において、引用実詞は lexical item になっておらず、強意の ‘degree adverb’ による修飾を許さず、また比較級形も持たないことから、形容詞ではないことを確認し、次に、引用実詞を述部においた関係節構造が意味的に成立しにくいことから、現在分詞と統語的な行動が異なり、従って現在分詞ではないことも確かめつつ、幾つかの引用実詞の例を検討していくことにする。ただし、主要語の名詞の用途・目的を表わす一般的な前位の動名詞との意味の差が非常に微妙であることは事実である。

- (24) The search for new, safe drug routes has produced some inventive solutions.
Perhaps the most unlikely twist in the *smuggling* game is the so-called “China Connection.” … “The Smugglers’ Tale”, NW, Oct. 6, 1986. p. 11.

‘smuggling’ は ‘very’ によって修飾できないので形容詞ではない。動詞 ‘smuggle’ は自動詞の意味が、‘密輸する’、他動詞は ‘…を密輸(入)する、密輸出する’ という意味であるが、本来的には、他動詞であって常に目的語の存在を期待させる。この場合は、文脈から判断すると、目的語は ‘drug’ である。この目的語は表層構造からは消去されている。この ‘the *smuggling* game’ に対応する表現は、‘*the game which is smuggling/smuggles drug’ ではなく (従って、‘smuggling’ は現在分詞ではなく)、‘the game at which they smuggle drug’ とか ‘the game of smuggling drug’ であって、決して ‘the game for smuggling drug’ ではない。

- (25) That (=the release of Daniloff by the Soviet Union), in turn, seemed to improve the prospects for a summit meeting this year or, more likely, early next year. In part, the *warming* trend was due to the diplomatic skills of Shevardnadze, who has proved to be an able go-between and a deft PR man. … “A Message From Moscow”, NW, Oct. 6, 1986. p. 18.

辞書には形容詞としての ‘warming’ は見当たらない。ところで、動詞の ‘warm’ は、‘～を暖かくする：～ (up) a room, 暖かい気持ちにする：The sight warmed her with pity.’ という他動詞と、‘暖かくなる：The room is warming up’ という自動詞と、自他両方の働きをもっているが、本質的には ‘warm something’ のように目的語に従える他動詞である。従って、この例文における ‘warming’ の目的語も当然その存在が期待されるのであって、文脈から判断すると、それは ‘the (diplomatic) relation between the two countries (=the Soviet Union and the United States)’ である。しかし、この目的語は前後関係からは自明なので、表層からは消去されている。この ‘the *warming* trend’ に対応する表現は ‘*the trend which is warming/warms the relation between the two countries’ と考えると意味的に成立しないので、‘warming’ は現在分詞ではない。では、対応する表現は何かと言うと、それは ‘the trend whose trait is *warming* the relation between the two countries’ とか、‘the trend of *warming* the relation between the two countries’ であるが、‘the trend for *warming* the relation between the two countries’ とはならない。前置詞の ‘for’ 一つで意味が変わってしまうからである。即ち、(25) の ‘warming’ は ‘trend’ の用途・目的を表わす動名詞ではない。

- (26) The impending F-16 deal is a welcome confirmation of a *warming* trend in the frosty course of U.S.-Greek relations. ... "Try a Little Tenderness", *TIME*, Jan. 27, 1986. p. 21.

これも 'warming' に関して (25) と同様の例である。

- (27) Shultz was relaying the Soviet leader's letter to Reagan in the Oval Office, other senior officials were telling journalists in the White House briefing room a few yards away that they expected no significant change in Mosoow's *negotiating* positions until after the Soviet Communist Party Congress next month. ... "A Farewell to Arms?", *NW*. Jan. 27, 1986. p. 5.

'negotiating' は very によって修飾されないから形容詞ではない。動詞 'negotiate' には他動詞と自動詞と両方があるが、他動詞の方は '(交渉によって) <条約などを> 協定する' という意味で、この例文の場合に、目的語は 'arms-control' または 'terms of arms-control' である。しかし、この目的語はこの例文がのっている記事の文脈から容易に推察することができるので、表層の構造では消去されている。一方、自動詞の方は、'(国が) [……を] 交渉する [about, for, on, over] : ~ for peace/~ with a foreign ambassador for a treaty' のように用いられる。仮りにもし、例文中の 'negotiating' が自動詞から派生したものと仮定すると、この語が持つ生来的な意味から自動詞でありながら、文脈上、'with Washington for (terms of) arms-control' というような '補助部' を義務的にとるはずで、義務的に他の要素に従えるという点では他動詞が義務的に目的語に従えるのと同様である。従って、'negotiating' の場合はその source が他動詞であろうとも、自動詞であろうとも、目的語なり必要不可欠な補助部なりを表層から消去した後に -ing 形をとっているものと考えられる。また、'Moscow's negotiating positions' に対応する表現は '*Moscow's positions which are negotiating/negotiate arms-control with Washington' ではない。というわけは、このような表現は意味的に成り立たないからである。従って、'negotiating' は現在分詞ではない。'Moscow's negotiating positions' に対応する表現は、'Moscow's positions in negotiating arms-control' である。'negotiating' は引用実詞ということになる。

以上、文脈上予測可能な目的語を省略した他動詞の '-ing' 形について、前位修飾語としての機能と種類を分析、分類したわけである。

参 考 書 目

- Bolinger, Dwight. 1967. "Adjectives in English: attribution and predication." *Lingua* 18. pp. 1-34.
Chomsky, Norm. 1965. *Aspects of the Theory of Syntax*. Cambridge, Mass. M.I.T. Press.
Hill, A.A. 1962. "Review of *The grammar of English nominalizations* by Robert B. Lees". *Language*, 38. pp. 434-44.
Hisazumi, Tsuruo. 1983. "Some Remarks on the Present Participle as a Prenominal Modifier (1)", *Annual Report*, Faculty of Literature, Otsuma Women's University, Vol. XV.
———. 1986a. "Some Remarks on the Present Participle as a Prenominal Modifier (2)", *Annual Report*, Faculty of Literature, Otsuma Women's University, Vol. XVIII.
———. 1986b. "Postnominal Present Participles with No Accompanying Complements", *Otsuna*

- Review*, The Bulletin of the Otsuma English Association, No. 19.
- . 1986c. "Prenominal '-ing' Participles Accompanying Complements." *JACET Bulletin*. No. 17. pp. 99~115. The Bulletin of the Japan Association of College English Teachers.
- Jespersen, Otto. 1909-1949. *A Modern English Grammar on Historical Principles*. Part II. Syntax (*First Volume*). George Allen & Unwin Ltd., London.
- Lees, Robert. 1960. *The Grammar of English Nominalizations*. The Hague: Mouton.
- Lehrer, A. 1970. "Verbs and deletable objects", *Lingua* 25. pp. 227-53.
- Quirk, R.S., Greenbaum; and J. Svartik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London and New York: Longman.
- Yasui, Minoru; M. Nakamura; S. Akiyama. 1976. *Keiyoshi* ("Gendai no Eibunpo", Vol. 7). Tokyo. Kenkyusha.